

# 矢作川流域圏懇談会通信

R2 山部会編 vol.5



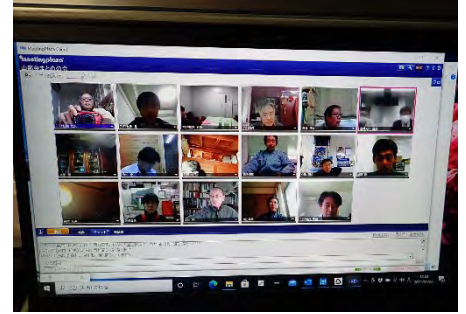
発行日：令和3年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第12回山部会まとめの会を開催しました！

今回の会議は、緊急事態宣言下において新型コロナウイルス対策の徹底を図るため、出席者全員オンラインによる会議を実施しました。会議では、今年度のふりかえりとして、流域圏担い手づくり事例集（10年誌）、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの活動進捗の報告を行いました。また、話題提供として、岡崎市森林整備ビジョン改訂業務の進捗状況について報告がありました。これら今年度のふりかえりをふまえ、次年度に向けた目標（活動計画）について話し合いました。

日時：令和3年1月22日（金） 14:00~16:45  
オンライン会議：参加者：19名 ※事務局を含む



## ◆主な会議内容

### 1. 令和2年度の目標とテーマ

令和2年度に設定した山部会の課題、活動テーマ、活動目標について確認を行いました。

- 課題1：人と地域の問題 活動テーマ：流域圏担い手づくり事例集・山村ミーティング
- 課題2：森の問題 活動テーマ：森づくりガイドライン・木づかいガイドライン

### 2. 各テーマの活動進捗報告

#### (1) 流域圏担い手づくり事例集（10年誌）

- ・ 矢作川流域圏懇談会が10周年を迎えたことを機に、「矢作川流域圏懇談会10年誌」を作成しました。
- ・ 「耕Life SDG's マルシェ」の「矢作川感謝祭」で、川に対する思い、持続可能な流域づくりについて語り合いました。「ゆく川・くる川・川談義」で、流域圏懇談会の活動を発信しました。
- ・ グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン2020に参加し、流域圏担い手づくり事例集の活動成果について、ポスター発表を行いました。

#### (2) 山村ミーティング

- ・ 林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、ガイドライン作成に参画できる体制を模索しています。
- ・ 「研究者、市民ボランティア、山林現場技能者によるガイドラインづくり」と「森づくり健康診断」を進めていく計画を立て、地球環境基金に計画書を提出しました。
- ・ 豊田市で開催された「耕Life SDG's マルシェ」の「矢作川感謝祭」に森林組合関係者などが参加しました。

#### (3) 森づくりガイドライン

- ・ 林業技術者の協力をお願いする文書案、ガイドライン策定会議の企画案について検討しました。山村ミーティングと共同して、地球環境基金に計画書を提出しました。
- ・ 岡崎市、恵那市の森林環境譲与税に関する取り組みについて、県や市の担当者と協議しました。
- ・ 岡崎市が実施している間伐の推進による緑のダム機能の向上について情報共有を行いました。
- ・ 話題提供 岡崎市森林整備ビジョン改訂業務の進捗について：蔵治光一郎会座長より、岡崎市森林整備ビジョン改訂の内容と関連する活動の状況について報告されました。

#### (4) 木づかいガイドライン

- ・ 今年度は多くのイベントが中止となりましたが、岐阜女子大学の学生による木材を使った家具製作実習、愛知教育大学との木育の取り組みを行いました。
- ・ 10年誌の中で、「私の流域物語」の意義や方法について示しました。
- ・ 市民創造型の取組として、名古屋市ほしぎさ保育園において伐採されたケヤキを利用したベンチ製作を行いました。
- ・ 普段の生活の中で「木のある暮らし」が実践できるように、森林整備や木を活用する体験プログラムを計画しています。プログラムでは、ウッドデッキや端材で作った椅子などを使います。
- ・ 南信州及び矢作川流域の小中学生を対象に、森林整備や木を活用するプログラムを実施しています。

### 3. 次年度に向けた目標（活動計画）設定について

令和3年度も引き続き4つのテーマ（流域圏担い手づくり事例集・山村ミーティング・森づくりガイドライン・木づかいガイドライン）で活動を実施していきます。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●流域圏担い手づくり事例集(10年誌)

- ・10年誌は印刷段階に入っている。全体で135ページ。10年誌の中で事例集のふりかえりを行ったことで、今矢作川で起きていること、何に注目してフォローすればよいのかが見えてきた。来年度は担い手づくり事例集の発行を再開するが、少し今までと違った形で取材が行えると思う。(洲崎)
- ・10年誌をまとめる上で、蔵治座長がパイロット版で書かれていたふりかえりが参考になった。山部会が懇談会全体の中で果たしてきた役割がよくわかった。(近藤)
- ・10年誌をなるべく早くHPで閲覧できるように、編集委員会と事務局で協議していく。(洲崎)
- ・10年誌の印刷について調整中だが、遅くとも2月上旬には印刷が終了する予定。印刷は500部。(佐藤・竹下)

### ●山村ミーティング

- ・12月に地球環境基金への申請を出したが、採否にかかわらず、動ける体制を検討していく。(丹羽)
- ・活動内容としては、4月以降に2ヵ月に1回の会合をプログラムし、研究者・専門家・技術者が集まって協議できる場を設定する。多くの森林技能者など林業関係者が参加したくなるようなプログラムを提示したい。(丹羽)
- ・根羽村では、フォレストガーデンなどの構想で、森づくりの活動を検討している。森林会話や森林コミュニケーションなどの活動で協働していきたい。(今村)
  - ▶ 根羽村の活動、フィールド提供などで協働していきたいと考えている。(丹羽)

### ●森づくりガイドライン

- ・森林経営管理法という新しい法律に関して、恵那市における具体的な取り組みについて情報提供があった。豊田市では水源涵養モニタリングが進んでおり、とよた森林学校の講座、ケーブルテレビや矢作新報の取材など、市民にPRされてきている。(蔵治)
- ・森林経営管理法について、市民への伝え方はどのようにやるのがよいか。(今村)
  - ▶ 最初にやることとしては、所有者の意向調査。森林管理の方法について仕分けをしていく。今までやってきた林業施策にこの仕組みをどのように組み合わせていくかが課題となっていくと思う。(蔵治)
- ・岡崎市森林整備ビジョン改訂では、18の個別施策を設定し、今年3月で見直し完了する。(蔵治)
  - ▶ 人工林の管理は、本数で管理するほうがやりやすい。(今村)
  - ▶ 個別施策11~13は関係してくると思うので協力したい。(高橋)
  - ▶ 個別施策16に関連して、先進的な取り組み事例もあるので、広報・PRに取り組むとよい。(洲崎)
  - ▶ 現場の森林技能者の声が反映されるような場があるとよい。(丹羽)

### ●木づかいガイドライン

- ・労働参加型、課題解決型の活動を中心に考えている。ウッドデッキを使った活動、ウッドサウナなどプレイスメイキング活動など。市民参加の森づくり、市民参加の木づかいなどを進めていきたい。(今村)
- ・魅力的なプランと思う。どのような方々が関わっているのか。(奥村)
  - ▶ 根羽学園、岐阜女子大学などの方々が関わっている。また、木づかいライブスギダラキャラバンは年間50回ほど出勤したので、参加者は1万人を越えていると思う。(今村)

### ●次年度に向けた目標(活動計画)設定について

- ・課題解決や目標達成のための活動を行うのに必要な経費を確保していく方法などあれば。(丹羽・蔵治)
  - ▶ 森林環境譲与税の活用を考えている。森林環境譲与税の有効活用に関する意見を矢作川流域圏懇談会として出してもよいと思う。(今村)
  - ▶ 県の補助・助成制度を活用したい。理想としては、県との共同作業ができればと思う。(蔵治)
  - ▶ 河川整備基金の制度がある。県をまたいだ流域治水も関係するので、活用できる可能性はある。(近藤)



## 今後のスケジュール(予定)

第10回全体会議：2月19日(金) 13:30~15:30

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129 技官 中村

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

